

もっと広がる、減装（へらそう）ショッピング
神戸から大垣へ！！いよいよ他エリアでも展開開始
《期間》2012年2月19日～3月4日

特定非営利活動法人ごみじゃぱん（所在：兵庫県神戸市灘区六甲台町2-1 神戸大学内／代表：神戸大学大学院経済学研究科教授 石川雅紀）は、**低炭素社会実現のため、包装ごみの少ない商品を選ぶ買い物基準を普及させ、日本のごみを減量するプロジェクト「減装（へらそう）ショッピング」**を、神戸市内で2007年2月より実施してまいりました。**2011年より実験段階を脱し、神戸市内全域展開により日常活動としての定着段階に入りました。2012年には、環境省と連携して、他のエリアへの拡大を岐阜県大垣市を舞台に展開します。**つきましてはごみじゃぱんの活動をご取材、ご報道頂きたくご案内申し上げます。

・神戸市外、初の展開実験

今まで神戸市内でのみ展開実験を行ってきたごみじゃぱんですが、今回初めて神戸市外での展開実験を行います。神戸市外、他県への展開は低炭素社会実現に向けた大きな第一歩です。この第一歩は、大垣市環境市民会議さんとの連携により実現できました。大垣市環境市民会議さんは、平成14年度からレジ袋ないない運動に取り組み、これを土台として全市41店舗によるレジ袋有料化を平成20年3月に実施、現在も有料化実施店舗でのレジ袋の平均辞退率は平均90%を超えています。このレジ袋削減活動と生ゴミ堆肥化の啓発活動の功績により、平成23年度環境型社会形成推進功労者として環境大臣から表彰されました。そういった市民団体と容器包装ごみの発生抑制「減装ショッピング」を推進してきたごみじゃぱんとの強力な連携を組むことで、新たな地域展開が可能になりました。

・活動の広がりや協働企業の増加

ごみじゃぱんの活動は着実に広がり、2011年11月からは神戸市全域のダイエー直営22店舗、コープこうべ鶴甲、計23店舗で減装ショッピングを実施しております。

今回の協力店舗は

ユニー株式会社・・・アクアウォーク大垣
株式会社ユタカファーマシー・・・ドラッグユタカ林町店
株式会社ダイエー・・・ダイエー鈴蘭台店
コープこうべ・・・コープ鶴甲

です。

年	展開店舗数	展開地域
2008	1	六甲アイランド
2009	3	神戸市2地域
2010	3	神戸市2地域
2011	23	神戸市全域
2012	23+2	神戸市全域+大垣市

・産官学民の連携による研究

今回の取り組みは環境省及び大垣市環境市民会議との連携により、実施することができることになりました。その結果、新たに流通小売業2社ユニー株式会社さんと株式会社ユタカファーマシーさんにもご協力をいただくことになりました。また、2011年12月より神戸市との連携協定を締結致しましたごみじゃぱんは今後、産官学民の実質的な連携による社会実験を行い、低炭素社会の実現、リデュースの推進に向けた研究を行っていきます。

・シンポジウムの開催

ごみじゃぱんでは4月下旬にシンポジウムの開催を予定しております。

今回の実験結果を、関係各社を交え、発表致します。詳細決まり次第追って連絡いたしますので、こちらもどうぞよろしくお願い致します。

実験概要

- 期間 2012年2月19日(日)～2012年3月4日(日)
- 実施店舗 ユニー株式会社…アクアウォーク大垣
株式会社ユタカファーマシー…ドラッグユタカ林町店
株式会社ダイエー…ダイエー鈴蘭台店
(神戸市内のダイエーでは、他店舗でも引き続き減装マークのPOP掲示をしています。)
- 内容 容器包装が減量化されている商品を「減装商品」として推奨することで、無理なくごみを減らす運動「減装ショッピング」を全国に普及させるため、流通・メーカー・生活者・NPOが一体となって取組み、普及啓発活動や基準作り、店舗オペレーション開発・ノウハウ蓄積に取り組めます。
- 目標 「減装ショッピング」を、社会全体のスタンダードにするには、生活者の直接のタッチポイントとなる店舗での協力が必要であり、「減装ショッピング」を実践できる小売店を増やすことが重要目標です。今まで活動してきた神戸市をベースに、神戸以外の地域における小売店での店舗オペレーションを開発し2012年度以降に多店舗展開を行う基盤を構築します。
- 実施手順 1) 以下のカテゴリの中から減装商品を選定。

生活雑貨	食品
シャンプー・リンス(D)	レトルトカレー(全店)
ボディーシャンプー(D)	PETボトル飲料 水・お茶(全店)
液体洗剤(D・U)	ロールパン(全店)
サランラップ(D・U)	レトルトライス(全店)
ハンドソープ(D・U)	(D=ダイエー鈴蘭台店、U=ユニークアクアウォークで展開)

- 2) 売り場の「減装商品」に推奨POPなど目印をつけて購入を促します。
- 3) 店頭ではポスターなど様々なコミュニケーションツールを用いて、生活者に、容器包装が少ない=ごみの発生抑制ができる「減装商品」の情報を伝えていきます。
- 4) 調査・分析を行います。

- 分析内容
 - ・POPなどで推奨した「減装商品」の売上動向(POSデータ等)
 - ・「減装商品」が定番化された場合のCO₂削減量分
 - ・生活者の意識変化を実験前と実験後で比較。
環境意識、購入経験、受容度、メッセージ内容の確認、企業イメージ等
 - ・認知度の高い神戸市と認知度が低い大垣市の比較

■ご取材 について

大垣では、2月9日午前11時より大垣市役所にて、記者説明会を行います。是非お越しください。
神戸では、2月10日午前10時より神戸市北神区民センターにて実施いたします減装フォーラムの後、12時より記者説明会を行います。是非お越しください。

大垣市役所

大垣市役所2階の記者クラブで行います。

神戸市北神区民センター

(神戸市北神区藤原台中町1-3-1)
神戸電鉄「岡場駅」下車、徒歩5分
2月10日午前10時～減装フォーラム
12時より記者説明をします。

ごみじゃぱんについて

■取り組みの背景

日本の容器包装のリサイクルは着実に進み、平成 21 年度のリサイクル率は 20.5%に達し、埋め立て量は 10 年間で約半減しています。しかし、その処理のために多額の費用を使っている現状があります。また、日本の容器包装は、内容物の保護以上に目立つ包装が採用される傾向があります。ごみじゃぱんは、2007 年、2008 年、2009～2010 年の実験を通じて、生活者が商品選択の際にごみ問題やリサイクルの費用などに気がつけば、より簡易な包装を選択することを実証してきました。

■減装(へらそう)ショッピングについて

ごみじゃぱんの学生達を中心となって企画・運営し、「ごみの発生抑制」を目的に“捨てる時”だけでなく“買う時”からごみの問題を考えるよう生活者に呼びかけています。同じカテゴリーの商品のなかで中身当りの容器包装重量が比較的軽い商品を「**減装(へらそう)商品**」として推奨しています。減装商品の中身当り容器包装重量の平均は、カテゴリー内全商品の平均の約半分(48%)です。生活者が推奨カテゴリー全体で「減装商品」を購入すると、重量で家庭ごみの約 25%、体積で約 60%を占める容器包装ごみが半分となり、重量 12～13%、体積 30%を減らせることが推計できます。



(R)

<http://gomi-jp.jimdo.com/>

■これまでの活動経過

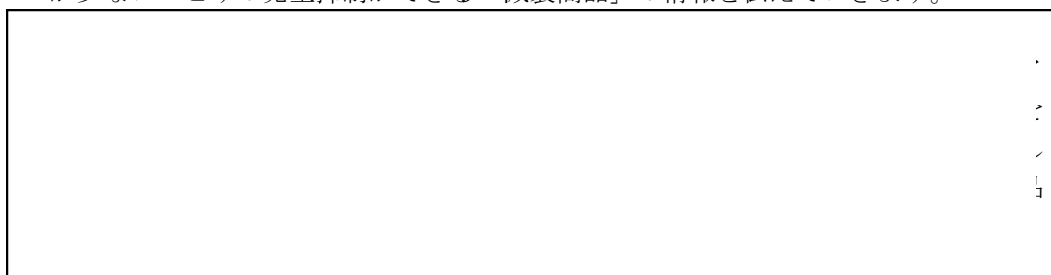
2007 年からの実証実験を受けて行った「減装ショッピング 2009-2010」(2009 年 11 月 13 日～2010 年 11 月 14 日)では、全国普及を目的とした基準作りと実施ノウハウ蓄積に取り組んできました。日常的に購買されている商品カテゴリー(生鮮を除く食品・トイレットリーなど)ごとに、協力店舗全商品の容器包装を独自に計測し(計測詳細は下記参照)、内容量単位あたりの容器包装が軽量化されているトップグループの商品を「減装商品」として推奨。売り場で POP などの目印をつけることにより、生活者が「減装商品」を自ら選択する購買スタイルを定着させるための活動を行ってきました。また 2011 年度では「減装ショッピング 2011」を実施し、学生達を中心となって、協働企業や生活者と連携しながら、PR イベント・子供達への啓発活動「減装学校」(下記参照)、生活者との対話と定性調査「減装カフェ」(下記参照)を行って参りました。

■「減装商品」の推奨方法

- 1) 小売店で販売されている商品から、食品(生鮮除く)・トイレットリー・文具を、使用頻度・用途・形状・調理法・活用シーンなどを考慮したカテゴリーに分類。
- 2) 容器包装の重量測定を行い、表示の内容量から「内容量 1 g 当りの容器包装量」を算出。
内容量 1 g 当りの容器包装量 = 容器包装の質量 (g) / 内容量 (g)
(※商品カテゴリーによっては「1 食当り」「1 回分当り」等の単位で算出)
- 3) カテゴリーごとに、「減装商品」を決定。

「減装商品」= 中身当りの容器や包装が少ない商品

- 4) 売り場の「減装商品」に推奨 POP など目印をつけて購入を促します。
- 5) 店頭ではポスターなど様々なコミュニケーションツールを用いて、生活者に、容器包装が少ない=ごみの発生抑制ができる「減装商品」の情報を伝えていきます。



■活動について

1)「減装カフェ」を定期開催。

神戸大学にて、「減装カフェ」を定期開催しております。地域の主婦の方たちやメーカーの皆さんにも参加していただき、容器包装ごみや、日々のくらしと環境の問題について意見交換をします。現在4月から5回実施7月の減装カフェには山崎製パン株式会社にもご参加頂きました。生活者の方々から共感、多種多様なご意見を戴いております。



2)「減装学校」では、小学校や児童館などへNPOごみじゃぱんの学生達が出張講義。

神戸市灘区の児童館を中心に実施、何気なく普段食べているお菓子を通じて子どもたちとごみ問題に関心を持てるゲームなどを行いました。2011年度は中学校での出張授業も行い、未来の生活者への啓蒙、教育活動を大学生主体で行っています。



3) その他、環境イベントへの参加

生活者に容器包装を考えて頂くべく、環境イベントに参加しています。2011年は

- ・神戸総合運動公園でのグリーンフェスタこうべ2011
 - ・伊丹リサイクルフェスタ 10/29
- などに参加いたしました。

特定非営利活動法人ごみじゃぱん

【設立】 2006年9月5日

【代表】 石川雅紀（神戸大学大学院経済学研究科 教授）

【事務局】 ・所在地 神戸市灘区六甲台町 2-1 神戸大学内六甲台第一キャンパス
第2研究室 107号

TEL:078-803-3005 FAX:078-803-3006

・事務局長 小島理沙

【発足の経緯と活動内容】

2005年10月、ごみゼロパートナーシップ会議がまとめた「簡易包装普及のためのシステム検討委員会平成15年度報告書」で立てられた仮説「ごみ問題を知り、インセンティブが与えられれば、生活者（消費者）の消費行動が変わる＝ごみが少ない商品選択を行う」を実証すべく、有志が集まりNPO法人設立を決定。前日本包装学会会長であり、長年に渡ってごみと環境の研究を重ねてきた神戸大学大学院経済学研究科教授・石川雅紀を代表に、社会人及び神戸大学の学生が中心となって発足しました。

発足以降、産官学民の連携で無理なくごみを減らせる社会作りを目指すNPO団体として、社会全体でごみの発生を抑制し、発生したごみは出来るだけ適切に処理していく活動を企画・展開しています。消費者、事業者、教育研究機関及び行政と連携して、簡易包装の普及、ごみの分別とリサイクルの向上、新たなリユースチャンネルの開発及びごみを少なくするための商品の製造・販売等に関わる社会実験を実施し、そこから得られた知見を基に、ごみ問題の抜本的な解決に資する社会的仕組みづくり及び自然環境と調和した都市づくりに寄与しています。

《本件に関するお問い合わせ先》

特定非営利活動法人ごみじゃぱん事務局

TEL:078-803-3005 FAX:078-803-3006

ホームページ <http://gomi-jp.jimdo.com> 開局時間 平日 13時~17時